

第1回 日本の展望委員会 個人と国家分科会 議事録

日時：9月3日(火)10:00~12:00

場所：日本学術会議 5階 5-C(2)

出席者：広渡清吾、小谷汪之、鈴木興太郎、水田祥代、長谷川真理子、白澤政和

欠席者：井上達夫、油井大三郎、濱田政則、岡野八代、神野直彦、吉田克己

議題

1 役員の選出

委員長を広渡清吾先生にお願いすることで、決定。なお、副委員長および幹事 2 名については、次回の多くの委員が集まった時点で決めることとした。

2 今後の議論の進め方について

・「日本の展望—学術からの提言(仮題)」全体としての主旨および今後の日程について説明があった。

・スケジュールとしては、本分科会は 2009 年 8 月頃を目処に成文化する。それをうけて、2009 年 10 月の総会において、「日本の展望—学術からの提言(仮題)」全体のスケルトン程度のを起草委員会が提案する。最終は、2010 年 4 月の総会で「日本の展望—学術からの提言」を採択する。

・本分科会としては 3 月頃に報告のスケルトンを提示することになり、8 月に報告をまとめるといった日程になる。

・本委員会の運営の方針としては、学術会議の第 1 部から第 3 部まで全分野から参加していただき、広く議論する。必要があれば、他の会員、連携会員等にも参加を要請する。

・現委員 12 人全員からの報告を受けてまとめていく。当面は毎回 2～3 名が問題提起について報告し、議論していく。4 回程度研究会を実施し、3 月までに審議を終える。

その後、夏休みにかけて、一部委員を中心にして執筆し、「現代における私と公、個人と国家—新たな公共性の創出」についてまとめる。

次回の委員会日程は 第 1 候補 10 月 30 日(木)3 時～5 時、第 2 候補 11 月 7 日(金)3 時～5 時と決まった。報告者は鈴木先生と小谷先生とし、20 分程度の話題提供をすることになった。

今後の報告書の内容についての議論としては、以下のような意見があった。

・日本学術会議で議論してきた代理出産や地球環境問題での提言も活用できるのではないか。

・公と国家でイコールできたことが問題であり、その整理が必要ではないのか。

・教育や社会福祉といった各論での議論も必要ではないのか。

・私的利益と共同利益の関係を整理される必要ではないのか。

・個と国家の間に地域という鍵概念が必要ではないのか。